

研修だより

No.6

4年3組 木村先生授業・社会科「自然災害からくらしを守る」

9月9日に4年3組の木村先生の学級で全校研が行われました。「できた！わかった！成長した！を実感させる学びのデザイン」に向けて、中学年ブロックで、子どもが主体的になるために教材研究に時間をかけ、資料を用意したり、必要な手立てを考えたりと、単元の目標に向かっていくことができるように授業内容がよく検討されていた授業でした。参観者が多い中での授業でしたが子どもたちは伸びやかに頑張っていました。事後研で出した意見などをまとめましたので、ぜひご覧になってください。

今までの取組
わかりやすい

時間をかけた
教材研究！



【事後研から】※一部抜粋 詳しくはロイロノート（校内研修）参照

○ロイロノートを活用することで、学習に参加しやすくなったり、導入時間を短くしたりしていた。

○良いタイミングで効果的な発問ができていた。

○教材研究をたくさんしていて、今までの取組の掲示や、写真の活用ができていてよかった。

○子どもたちが自分たちで調べたことをもとに、協力して学習に臨む姿が見られた。

△教科書を学んでから、副読本で帯広について振り返り、比較するとよい。比較の視点も伝える。

△板書「ある・ない」「静岡・帯広」など、見やすくするとわかりやすかったのでは？

△授業の最初と最後でどのように変化したのか。その理由を考えさせて進めるとスムーズだったのでは
ないか。

△プラスワンについて具体的な指示があればよかった。

【まとめ】今後に向けて

○指導主事より

- 子どもが主人公（学ぶことが楽しいを実感）のために、「教わる」から「学ぶ」授業への転換。
①個人目標（自分のゴールのイメージ）②ゴールの道筋（目標達成の手段や方法）③ふりかえり（個別目標の到達度を確認）
- 子どもが自立した学習をするための教材研究（①教師がわかりやすく説明できること②子どもが何に困るか理解③子供同士での学びを深めるために）

- 授業づくりの基本「5つの視点」より

[視点2]内容や時間のまとまりを見通した単元（題材）のデザイン

- 1 主体的に学習に取り組めるよう、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。
→次の学びにつなげる原動力
- 2 対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を設定する。
→学びの質を高める「対話」
- 3 学びの深まりをつくりだすために児童生徒が考える場面と教師が教える場面を組み立てる。
→「見方・考え方」を働かせる

児童生徒の学習状況に応じて指導計画の見直し

※木村先生の授業はこのデザインで考えられていました。

○校長より

- 切り口に価値がある。なんで、どこが→自然に調べる。
- 帯広市の対策の資料をもう一つ加えるなら→とても良い発問。
- 防災グッズを揃える→1時間自分で選べる。
- 社会科は、足元から学校、地域、日本、世界、また今の自分から、未来「こんなふうに生きていきたい」と、生活で生かすことを考える。
- 個人目標の立て方→思考・判断で考えると、行動でいいのか。
- 帯広市の地震について、自分の資料をもとに説明できたか→実感できる個人目標にする。

※個人目標については、単元や本時の目標、評価規準をもとに、子どもたちが前向きに取り組めるものをブロックで検討していきましょう。



木村先生お忙しい中、ありがとうございました！